

病防第83号
平成26年9月4日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成26年度病害虫発生予察注意報第3号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

平成26年度病害虫発生予察注意報第3号

農作物名 トマト
病害虫名 トマト灰色かび病

- 1 発生地域 中山間地（夏秋栽培地域）
- 2 発生時期 収穫期
- 3 発生程度 多

4 注意報発表の根拠

- （1）8月19日～21日に中山間地の夏秋トマト栽培地域6地点で実施した調査では、全ての地点で灰色かび病を確認した。ほ場内の茎葉での発生状況は、発病株率60.0%（平年5.6%）、発病度15.3（平年1.4）で平年と比較して多かった（図1、図2）。
 - （2）果実での発生状況は、発病株率1.0%（平年0.0%）、発病度2.5（平年0.0）で平年と比較してやや多かった（図3、図4）。
また、商品価値を低下させるゴーストスポット^注を調査した6地点のうち5地点で確認した（データ略）。
- 注）灰色かび病の胞子が果実表面に付着し生じる黄白色円形の中心点がある小斑点
- （3）普及指導員や病害虫防除員の聞き取りによると、発生は多い状況である。
 - （4）9月1日に発表された日照不足に関する熊本県気象情報第2号によれば、今後2週間程度は、日照時間の少ない状態が持続すると予想されており、灰色かび病の発生に好適な条件となる恐れがある。

5 防除対策

- （1）気温が20℃前後で湿度が高い場合に発病が多いので、摘葉等による通風採光を図り、多湿にならないようにする。
- （2）発病後の薬剤防除は難しいので予防散布に重点を置く。
- （3）被害果、被害茎葉、花卉は伝染源となるので、早期に除去し、ほ場外で適正に処分する。
- （4）果実では、かびが発生しなくても、果実表面に黄白色の小斑点（ゴーストスポット）が生じることがあり、商品価値を著しく下げるので注意する。
- （5）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

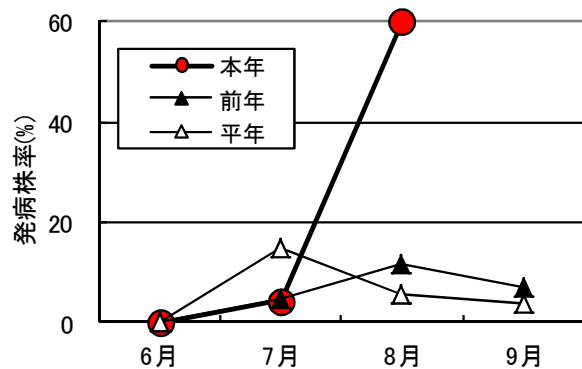


図1 灰色かび病発病株率(茎葉)の推移

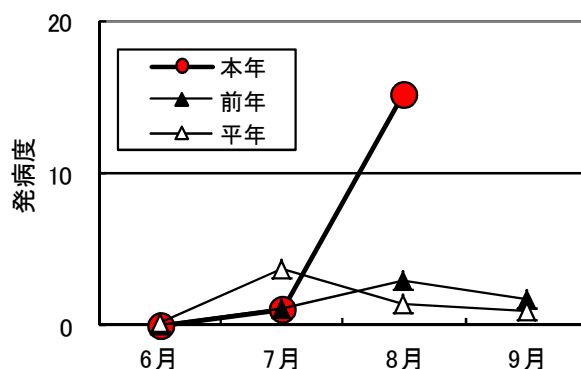


図2 灰色かび病発病度(茎葉)の推移

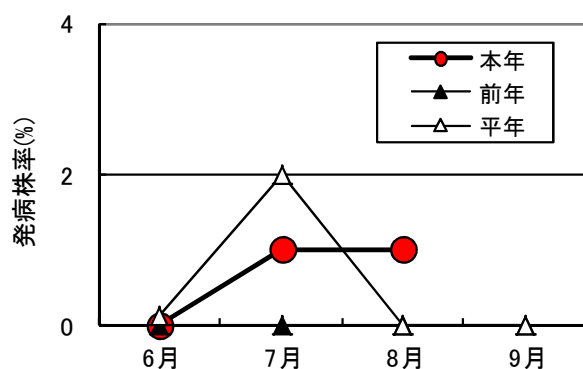


図3 灰色かび病発病株率(果実)の推移

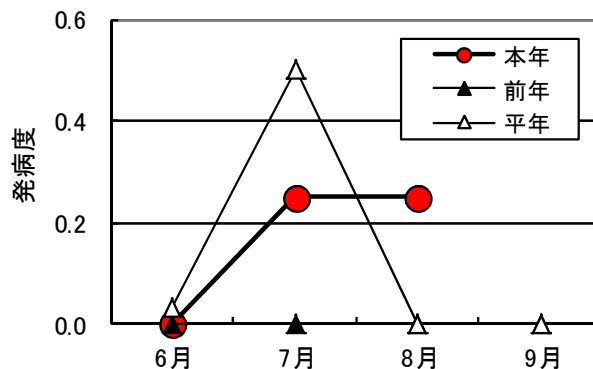


図4 灰色かび病発病度(果実)の推移



写真1 茎葉に発生した灰色かび病

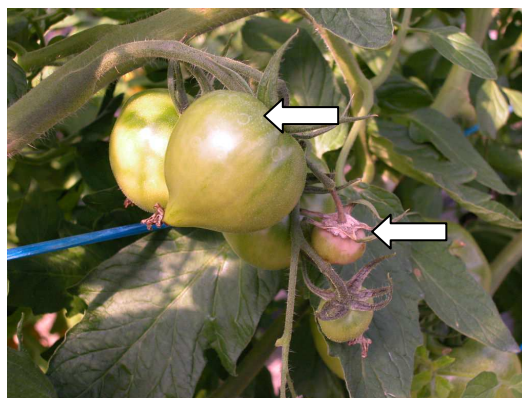


写真2 果実に発生した灰色かび病

〔上部矢印：ゴーストスポット
下部矢印：発病による果実の軟化腐敗〕

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係)
担当：児玉、荒木 TEL 096-248-6490